

|                |   |      |       |
|----------------|---|------|-------|
| 科目名            | キリスト教学Ⅱ   | 必修選択 | 必修    |
|                |   | 授業形態 | 講義    |
| 担当教員           | アンネリーゼ・デーケン<br>御子神 隆也   | 単位数  | 2     |
|                |   | 開講時期 | 2年次前期 |
|                |   | 開講学科 | 全学    |
| 目標             | キリスト教思想に基づく人間の生と死の理解を学ぶことを通して、人生の意義や人間の尊厳について考え、人間らしく豊かに生きるための指針を探る。  |      |       |
| 内容             | 毎回定められたテーマ（下記「計画」参照）について講義を行い、いくつかのテーマについて小論文を作成、提出させる。   |      |       |
| 履修上の注意         | 特になし。   |      |       |
| <b>授 業 計 画</b> |   |      |       |
|                | <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 「復活」とその意味／初代教会の成立</li> <li>2. 神の国の福音</li> <li>3. キリスト教の人間観——「神のかたどり」である人間</li> <li>4. 命の尊さを考える(1)</li> <li>5. 命の尊さを考える(2)</li> <li>6. 祈りと宗教儀礼（人はなぜ祈り、祭りをを行うのか）</li> <li>7. キリスト教の祈りと礼拝</li> <li>8. 死から見る生の哲学（死生学）(1)——死とどう向き合うか</li> <li>9. 死から見る生の哲学（死生学）(2)——死別の悲しみと生きる希望</li> <li>10. キリスト教における性と結婚——人間にとって性とは何か</li> <li>11. キリスト教の歴史から学ぶ(1)——十字軍の教訓と諸宗教との対話</li> <li>12. キリスト教の歴史から学ぶ(2)——宗教改革と教会の使命</li> <li>13. キリスト教と文化——インカルチュレーション（福音の文化的受肉）の問題</li> <li>14. 愛、正義、そして平和への道</li> <li>15. 総括</li> </ol> |      |       |
| テキスト           | 『聖書—新共同訳・旧約聖書続編付き』（日本聖書協会）<br>アルフォンス・デーケン著『キリスト教と私』（聖母の騎士社）<br>石川康輔編『きょうの祈り』（ドン・ボスコ社）   |      |       |
| 指定図書           | なし。   |      |       |
| 評価基準           | ①試験・小論文（70%）<br>②授業出席（30%）  |      |       |

|                |  |      |       |
|----------------|--|------|-------|
| 科目名            | 哲学A  | 必修選択 | 選択    |
|                |  | 授業形態 | 講義    |
| 担当教員           | 御子神 隆也   | 単位数  | 2     |
|                |  | 開講時期 | 1年次前期 |
|                |  | 開講学科 | 全学    |
| 目標             | 世界および人間に関する真理を探究するための哲学的視点・知識を学び、人間らしく幸いに生きるために自ら考える力を身につける。   |      |       |
| 内容             | 哲学概論。哲学史における主要なテーマ（下記「授業計画」参照）を取り上げ、それについて講義、質疑応答を行う。  |      |       |
| 履修上の注意         | レポート作成に役立てるために、講義内容に関連する3冊程度の本を読むことが求められる。   |      |       |
| <b>授 業 計 画</b> |  |      |       |
|                | <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 知ることの意味—人間にとって知識とは何か</li> <li>2. 自然哲学(1)—古代ギリシャ哲学、ユダヤ・キリスト教思想から</li> <li>3. 自然哲学(2)—自然および生命の価値</li> <li>4. 存在論—プラトン、アリストテレスの思想から</li> <li>5. 認識論(1)—合理主義</li> <li>6. 認識論(2)—経験主義</li> <li>7. 認識論(3)—カント、ヘーゲルの思想から</li> <li>8. 宗教と科学との関係性</li> <li>9. 言語哲学(1)</li> <li>10. 言語哲学(2)</li> <li>11. 哲学的人間論(1)</li> <li>12. 哲学的人間論(2)</li> <li>13. 哲学的人間論(3)</li> <li>14. 価値論—倫理価値と生きる意味について</li> <li>15. 総括、レポート作成指導</li> </ol> |      |       |
| テキスト           | なし（テーマごとに講義レジュメ、教材プリントを配布する）。  |      |       |
| 指定図書           | なし。  |      |       |
| 評価基準           | <ol style="list-style-type: none"> <li>①受講態度(30%)</li> <li>②レポート(70%)</li> </ol>   |      |       |